

令和4年度第1回苅田町総合教育会議 議事録

1 日 時 令和5年1月11日(水)
開会 18:30 閉会 19:30

2 場 所 苅田町役場4階401会議室

3 出席者 苅田町長 遠田 孝一
苅田町教育委員会
教育長 井上 三津子
教育委員 沖永 圭子
教育委員 下野 孝次
教育委員 土屋 隆之
教育委員 横尾 直人
事務局関係
学校教育課長 吉永 康彦
生涯学習課長 山口 悟
学校教育課主幹 梶田 純子
生涯学習課主幹 森 由美子
学校教育課副課長 中野 勝広
学校教育課 木村 晴菜

4 協議・意見交換

- (1) 今後の教育課題について
- (2) その他

5 議事の概要

◇開会

(中野副課長)

ただ今から令和4年度第1回総合教育会議を始めます。本日の進行を努めます学校教育課の中野です。よろしくお願いします。

総合教育会議の開催に当たりまして、会議の目的について改めて確認をさせていただきます。この会議は、町長部局と教育委員会が十分な意思疎通を図り、町の教育の課題やあるべき姿を共有するための場となっております。時間は1時間と限られていますが、皆様から多くのご意見を頂戴したいと思いますので、よろしくお願い致します。では、次第に戻りまして、遠田町長よりご挨拶をお願い致します。

◇挨拶

(遠田町長)

皆さん、こんばんは。本日はお忙しい中、又、遅い時間にも関わらず総合教会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

少し町の話をして頂きます。まず、コロナ関係についてです。今日も(県内で)10,000人を超える方が感染しました。10月から感染者数の全総把握ができなくなり、第8波で最多の約14,000人の感染者数になりました。すごく増えています。先週の土曜日にワクチン接種会場に行った際、医師の方々が大変な状況だと言われていました。第7波よりもむしろ多いのではないかと、この事でした。大変心配をしております。既定の路線は行動制限をしないという事なので、何とか自分で身を守るしかありません。医師会に全面協力をして頂き、ワクチン接種が順調に進んでおります。現在は5回目の接種です。しかし、ワクチン接種が3月で終わるかどうかは分かりません。体育館改修工事の開始に影響が出ないか心配をしております。

現在、来年度予算を審議していますが、ワクチンの予算を付けておりません。ワクチン接種が無いという前提でやっていますが、もし必要になれば補正予算を付ける事になります。

それから、荻田町の人口が過去最多を更新した事をご存じでしょうか。11月末の集計で、37,748人になりました。12月になって少し下がりましたが、人口減少社会の中で、過去最多を更新したのは大変喜ばしい事だと思います。

次に、私たちが力を入れてやっている事をご紹介しますと思います。

1つ目は新しい時代に対応する新しい取り組みです。①デジタル化②SDGsあるいはカーボンニュートラル③グリーントランスフォーメーション(GX)です。グリーントランスフォーメーションについてですが、荻田町議会でも話題になっています。今までは公園や街路、古墳などの緑より、企業誘致に予算を使っていたので、町民の皆様に還元をするために、来年度は景観整備の予算を付けています。

2つ目は、財政の健全化です。平成21年度から27年度まで7年連続赤字になっていました。町長や管理職の給料をカットしたり、公園の利用料を値上げしたり、苦しい状況が続きました。財政の健全化が最も大事な課題だと考えています。財政の健全化を続けながら、職員のスキルやモチベーションを上げる必要があると考えています。国から色々な仕事の下りてきます。例えば、ワクチン接種や、妊娠・出産時に5万円給付する制度の実施などです。これらの実施にも人員が必要です。どんどん国からの仕事が増えていくのに対して、職員数を増やし続ける事は、将来大きな負担になるかもしれないという懸念があります。職員数を増やす事に対しては慎重になるべきだと考えています。財政に大きく影響します。65歳まで雇用するという事を考慮しながら、職員や会計年度職員の方を適切に配置し、協力して頂きたいと考えています。

そしてやはり、子どもたちの事が大変気になります。昨日、荻田中学校の吹奏学

部の方が町長室へ表敬訪問に来ました。アンサンブル県大会で金賞を受賞し、九州大会への出場が決定しました。5分程演奏してもらいました。中学校3年生で、これだけできるのかと思うような立派な演奏でした。その時に子どもたちが、「中学校の楽器を新しい物に更新して頂いたので、こういう成果を上げることができました。」と言っていました。大変嬉しかったです。財政課に来年度予算の状況を聞いてみたところ、予算案に対して約8割の予算を付けるか検討しているようでした。子どもたちが生き生きとし、学力が伸びる事は町にとっては喜ばしい事です。何といってもやはり、子どもたちが生き生きとできるような政策が進められたらいいなと思っています。

近年の予算の中では、小・中学校費のデジタル化やそれに伴う人件費をかなり付けていますが、子どもたちの環境を整備する、投資をする事は町にとって非常に有効だと考えます。本会議で皆様に様々な意見をお聞きしながら、より良い予算編成をし、投資をしていきたいです。また、効率的な投資になっているかどうかは、検証すべきだと考えます。本日はよろしくお願い致します。

(中野副課長)

ありがとうございました。次に教育委員会を代表致しまして、井上教育長にご挨拶をお願いします。

(井上教育長)

皆さんこんばんは。年が明けまして、8日には荏田町でも成人式(はたちの集い)が無事終わりました。和やかな成人式でした。コロナ禍の中、お忙しい中、ご出席頂きありがとうございます。遠田町長におかれましては、お忙しい中、時間を作って頂き、本日の総合教育会議を招集して頂きました事に、心よりお礼を申し上げます。

さて、コロナの第8波の中、学校では2学期後半がスタート致しました。冬休み明けという事でコロナ感染者が多く報告され、大変心配しております。しかし、子どもたちは元気に、学校が始まった事を喜んで、教室の中も笑い声で満ちているような気が致しました。町長におかれましては、日頃より教育に対するご理解とご支援を頂いております。本日は、令和5年度に向けて町長の教育の方向性に関する考えをお聞きし、町長部局と教育委員会がより一層連携しながら、学校のより良い成長を目指し、施策を立案し、実行していけるように協議ができればと考えています。ウィズコロナを見据え、新しい教育方針が会議を通して明確になり、共有していきます事を祈念致しまして、簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。

(中野副課長)

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして、協議・意見交換を行いたいと思います。本日のテーマは「教育課題について」です。令和5年度に向けた

荏田町の教育の課題と方向性について、井上教育長の説明の後に、委員の皆様より意見を頂きたいと思ひます。本日は電子黒板をご用意しておりますので、お手元の資料があるかと思ひますが、学校で使っている物と同じ物になりますので、できればそちらを見て頂ければと思ひます。

(井上教育長)

それでは、荏田町の現状について皆様に知っていただくために、資料をもとに説明させていただきます。本来は学校教育と生涯教育どちらも説明させて頂くべきなのですが、本日は時間の都合上、学校教育の課題と方向性の説明を中心に行ひます。

まず、課題についてです。

1点目に、「若年教員が多く、指導技術が不十分」という点についてですが、20代、30代の先生が全体の70%を占めています。40代、50代の先生が数名しかいません。

2点目に、「町全体としての連携の弱さ」です。各学校の取り組みは十分にされていますが、荏田町全体として何かをするという取り組みが弱い気がします。

3点目は、小学校中学校では「勤務時間の多さ」が問題になっています。

4点目は、「地域との連携の不足」についてです。コロナ過の影響もありますが、これまで地域の多くの方々が学校に足を運んでくださっていたのが、だんだん少なくなってきました。

5点目は、小学校に比べて「中学校における学力向上の必要性」があるという事です。特に、数学の定着度が低いということで、取り組みな取り組みを進めています。

6点目は、ミドルリーダーの育成不足です。先ほども述べましたが、40代、50代の先生が不足しています。

7点目は、「教育環境の不十分さ」についてです。ICTの積極的推進のための環境整備が必要とされています。一人一台端末を導入しましたが、繋がりにくいという状況もありますので、まだ環境整備が必要です。

8点目は、「外国人児童・生徒の増加」についてです。コロナの関係で少し減っていたのですが、今年に入ってまたぐっと増えました。日本語指導体制が追い付いていない状況です。

9点目は、コロナ過の影響もありまして、「不登校児童生徒が増加」しているという事についてです。

10点目は、「SDGsへの組織的取組が不十分」だという事です。各学校での関連の取り組みはありますが、まとまりのある組織的取り組みがまだできておりません。

これらの課題を受けまして、荏田町として求められる教育施策の方向性にどのようなものがあるか考えてみました。「荏田はひとつ」という考えのもと、町全体で教育財産を生み出す、共有するという基本方針に沿った教育施策の立案が求められて

います。これら6つの点について、教育長として考えました。簡単にご説明します。

1番目に、「一人一台端末を活用した授業改善と情報共有」についてです。町長部局のご尽力により、荊田町では一人に一台端末、一教室に一台大型モニターを設置していただきました。京築地区では、荊田町に追いついていない所もあります。荊田町は、最後尾のスタートでしたが、今では京築の中でもトップを走るくらいの環境整備をして頂きました。しかし、全校同時に使用すると通信が滞ったりするなどの問題が起こったので、高速大容量のネットワークの整備がさらに必要になってきました。荊田町の先生がこれだけ短期間にタブレットが使えるようになったのは、ICT支援員のご努力がありました。4校に1名の割合で配置しました。放課後にミニ研修を行うなどきめ細かい対応で先生たちに指導をして頂き、ニーズに応じた働きかけがあったおかげだと思います。継続配置と研修成果の精査を進めていく必要があると考えます。先ほど申し上げましたように、京築のトップに立つような活用ができたのは、ICT推進プロジェクトチームを立ち上げたからだと考えます。各学校の情報交換をし、良い取り組みについてはお互いに真似するようにしてきました。これが横の連携を作る根幹になるのではないかと思います。プロジェクトチームの今後の有効活用を図っていきたいと考えています。

それから、タブレットを使用した授業づくりの模索として、白川小学校と新津中学校が情報活用能力向上事業を引き受けています。この取り組みを横展開するために研修会を行いたいのですが、端末を利用したオンラインによる学びを活性化させていきたいと思っています。

それから、現在は家庭学習の手引きをペーパーで配布していますが、今年度は荊田町学習サイトの開設をしたいと考えております。一人一台端末でどのように家庭学習を進めていけるかを模索してまとめたいと考えています。議会等でも指摘されましたが、学校間・学級間格差を縮めるための方策が必要になってくると思っています。

2番目が、「学力向上を目指す授業改善」についてです。学校としては、これに一番重きを置きたいと考えています。今まで多くの新任教員が入ってきましたが、だんだんと落ち着いてきました。来年度は、荊田町全体ではおそらく5名程度を配置する事になりそうですが、今いる若い先生方を鍛えることで授業力が増すのではないかと思います。若い先生方のニーズに応じた研修内容を工夫するなど、日常的研修を実施していきたいと考えています。それから、ミドルリーダーの育成として、30代後半からの先生方に荊田町独自の研修を受けて頂いて、力を付けていきたいと思っています。そのためコアティーチャーや研究主任などを活用し、お互いの学校に講師として派遣できればと考えています。

主体的、協働的な深い学びを目指す授業改善のために、とありますが、新しい指導要領ではそのような学びを目指しています。子どもたちが自分の力で学びを進めていくために必要な事をここに挙げております。中でも、デジタルドリルの活用ということで、町長部局から予算を付けて頂き、算数と数学のデジタルドリルを

使っております。全国学習学力状況調査の中でもだんだんとその教科の点数が上がってきておりますので、この効果もあると思います。今後は、国語、理科、社会と拡大していきたいと考えています。成果が出るまでは大体2～3年時間がかかりますが、長い目で見て拡大していきたいです。

3番目が「地域との連携による社会に開かれた授業づくり」についてです。町内企業出身の下野委員ともお話をしていますが、地域企業の方とも連携して学習を進められたらと考えています。コロナが落ち着いたら、地域の高校や大学と連携、地域の人材の積極的招聘をしながら、地域に開かれた授業改善を行いたいと思っています。また、荻田町では、令和7年度を目指して毎年2校ずつコミュニティ・スクールを試行しています。荻田版地域運営学校との関連を重視しながら、地域に開かれた授業づくりを行いたいと思っています。

4番目が「情報共有や組織改革による働き方改革の推進」についてです。今まで、校長会、教頭会、主幹会を集めて開催していたのですが、一人に一台端末があるので、オンライン化により移動時間を無くせたらと考えています。

それから、若い先生方が多くいますので、安心して授業を行えるように、今までの先生たちが作成したデータをサイトに集め、全てのデータを誰もが使えるようにできたらと考えています。それが働き方改革に繋がると考えます。

今お話しした事の組織作りとして3つプロジェクトを立ち上げました。ICT推進プロジェクト、学力向上推進プロジェクト、地域連携プロジェクトの3つによって進めていきたいと考えています。

5番目が不登校、特別支援に基点を置いた「チーム学校づくりと教育相談の活用」についてです。不登校の早期発見、早期対処、問題事例に対応したチームづくりの工夫を各学校で行っています。学校と教育委員会、関係機関との密な情報交換を行って、早め早めの対応をしていきたいと考えています。

6番目が、多文化共生としての日本語指導の充実についてです。令和2年度は対象児童が6名でした。それから、3年度が6名、4年度は12名、5年度には15名と増えております。これは多分今後加速度的に増えていくのではなかろうかと思います。今、荻田町は福岡県日本語指導事業の指定を受けて、取り組みを行っています。町から予算を付けて頂き、2名の指導員を雇用しております。しかし、2名ではとても間に合わないので、増員の必要があります。県にも加配要望を提出しているところでございます。以上が荻田町教育の課題と方向性になります。これらをご理解頂き、皆様方から様々な意見をお聞きできればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(中野副課長)

ありがとうございました。ただ今の説明を踏まえまして、意見交換の場にさせて頂きたいと思いますので、意見や要望、提案等がございましたらよろしくお願いいたします。どなたかいらっしゃいませんか。

(下野委員)

一番最後の外国人児童・生徒についてお聞きしたいです。私自身は町内企業で働いております。工場の話から致しますと、コロナも落ち着き半導体が入って生産が徐々に戻ってきています。弊社は生産が下がった時に人を離さなかったのですが、関連メーカーの皆さんは、一時的に雇止めを行い人を減らしています。今は人がどうしても集まってこない実態があって、まさに今から外国人の雇用が増えてくるということを色々なメーカーさんから聞いています。今、賃金を上げるだとか、世の中物価が上がってきているので、額を少し上げて労働者が来ないという実態が多くあります。特に自動車産業は裾野が広いので、関連の部品メーカーさんがいっぱいいるんですけど、外国人実習生に頼っているという実態もあります。これはまさに教育長が言われたように加速していくんじゃないかなと思います。そういった意味では、指導員の増員は計画を立てながら先手を打つという事が重要になると思います。間違いなく外国人は増えていくだろうと考えています。

(沖永委員)

まず一点、私は学校現場から離れてちょうど10年になるんですけれども、10年でこんなに電子化が進むのか、と驚いています。驚いたと共に、これからが楽しみでもあり、子どもたちに効果的なことになるようにお願いしたいなと思っています。

それから、下野委員が言われた事についてですが、令和元年に荻田町に初めて外国人児童が来た時に、指導員をさせて頂きました。テキストも何も無く、千葉県のテキストを出して、あの時は3人の児童生徒だったと思いますが、日本語ができる子もいればできない子もいて、どのくらいの知識があるのかも分からないし、家庭環境も全く違って、本当にてんやわんやでした。1日中付いているわけにはいきなりですし、週3日で日本語指導を行い、学校の勉強を教える事はまず無い、まずは日本に慣れてもらうという状況でした。それが、今資料11ページの表を見ると、5年間でこんな風に増えていくとなると、到底二人の先生ではなかなか難しいのではないかと、思います。一人一人の時間割とテキストも作成しなければなりませんし、今後の人員配置が大変だとは思いますが、できれば来日した子に対しては何か月か日本の挨拶やルールを教えるなど、色々方法はあると思います。外国から来た子どもたちも日本の子どもたちと同じように大切にしてもらいたいなと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(土屋委員)

働き方改革についてです。医師の業界でも働き方改革について問題提起されています。仕事をした後、当直に入ってからまた翌日そのまま出勤する。そうすると34時間くらい連続で勤務する事になります。重症患者さんを持っていたりすると土日は関係なく勤務になります。私も開業して20年目になりますが、大体最低で80時

間ぐらい、多い時は100時間残業しているんですね。働き方改革は業務量を減らすか、人を増やすか、究極を言うとそれしか無いんですね。業務量を減らすのは病院では無理なので、人を増やす事になる。すると、コストがかかってきます。皆さんご存じないかもしれませんが、総合病院は赤字経営をしています。何とか黒字に持っていけないのかと思いますが、財務省は医療費削減を掲げています。人を増やすために、育児中の医師が自宅でモニターを使用して画像診断をするケースもあります。学校の先生も同じだと思うんですね。人を増やす事ができないのか考えた時に、退職された先生方や育児中の先生方を頼るなど。例えば、大きな病院であるのが、看護師さんを確保するために、院内保育所を作ったり。町長がおっしゃられたとおり、予算が赤字だという事で、言いづらい事ではあるのですが、人を増やす事はできないのか、と考えています。

(横尾委員)

私は子どもが学校に行っている立場ですが、学校生活について申し上げたいと思います。先ほどの働き方改革にも繋がると思いますが、夜遅くまで先生が頑張っていて、大変だなと思っています。小学校の先生が生徒を30人、1人で全部抱えているように感じています。ただ、個人的には、子どもと先生が合わない、そういう時の逃げ場があまり無いんだろうな、と思います。先生も一生懸命やっているんだろうな、とは思いますが、先生が熱血過ぎて子どもが引いてしまっている場合があります。言葉が過ぎてしまうというか、それを伝えても、あまり伝わらないというか。うちの子どもだけかなと思っていましたが、他の親御さんも何人かそう思われているみたいです。そういう時にスクールカウンセラーの方を頼っても、上手く伝わらないな、と感じたりします。上手い事連携できないかなと、一人でやっていたらパンクするんだろうと思います。親の立場からの発言で、モンスターペアレントになってしまうのも嫌だし、そういうつもりも無いんですが。お互いやりにくく、伝わりにくいなと思っています。先生方も抱えすぎてきついのかなと。不登校の早期発見にも繋がるのではないかなと。今コロナでなかなかできないとは思いますが、退職した教員の方は時間があると思いますし、そういう方々に上手く頼れないかなと考えています。

(中野副課長)

ありがとうございます。それぞれの立場からのご意見を頂くことが出来ました。他に意見や要望はありませんか。

(下野委員)

一点だけ教えてください。先ほどの話の中で、若年教員の方が多く、40代の方が少ないとのことですが、原因は何ですか。40代の方が少なくなった原因追及はなされていますか。勝手な想像ですけど、若い先生を雇用しても、女性は結婚や出

産を機に辞めてしまうのか、男性でも、多忙な重労働で教育の道を離れていってしまふのかなどですね。40代の先生方が同じ理由で離れていってしまふと、また同じ事になるので、原因を深掘りして、対策を考えるべきなのではないでしょうか。

(井上教育長)

私たちの世代が団塊の世代で大量に採用されているのに対して、40代、50代が少ないのは、その世代が採用数が少なく就職氷河期に当たるからです。日本全体に言える現象でした。ここ近年は私たち60代が大量に退職し、若い世代が大量に雇用されています。

(下野委員)

そうであれば、対策としては定期的に雇用していくという事になりますね。うちの会社もそうなんですけど、不景気になると人を取らなくて、景気が良くなると人を取る。すると、空洞化が起こるので、人を取っていない時期の社員に監督や管理職になってもらおうとすると、その層がいない、まさに学校の先生と同じですよ。指導する年齢層がいないという事になりますよね。職員採用のところで提唱していくべきだと思います。

(土屋委員)

ちょっと教えてください。苅田町の先生の採用はどこが行っていますか。

(梶田主幹)

福岡県です。

(土屋委員)

定年になった先生を雇用するなど、苅田町独自の雇用は可能ですか。

(梶田主幹)

福岡県でも、非常勤講師を週3日勤務やフルタイム勤務で必ず声かけをしています。苅田町でも県費で退職した先生方が各学校に何人か派遣されています。町費でもまた別にお問い合わせをしています。

(土屋委員)

そういう方々にクラブ指導をお願いできないですか。正規の先生方の業務からそういった指導を外すことはできないですか。

(梶田主幹)

雇用形態にもよりますし、非常勤講師の先生にどこまでお願いできるかというの
はあります。今後は部活動指導員等も呼びかけていく事になるかと思うので、退職
教員もその範囲に入るかと思います。

(遠田町長)

人手不足の話が出ましたけれども、役場の採用試験でも今は売り手市場になっ
ています。1次試験の日に台風で試験が延期になったのですが、6割の人しか受け
に来ませんでした。2次試験も黙って2人来ず、最終合格者も辞退する人がいます。
本当に難しいですね。福岡県、福岡市、北九州市の試験があって、苅田町、みやこ
町と複数受験する方もいます。先に受けた自治体の方が待遇がいいのでそちらに行
く。面接時に苅田町に合格したら来ますか、と聞いたら来ますと言ったのに来ない
という事も多くあります。退職者の雇用も一つの方法だとは思いますが、役場でも再
任用という形を取っていますが、役職を離れるのでどうしてもモチベーションが下
がるようです。年下の職員から指示を受けることになってしまうんですね。言われ
る事しかしないというか、そのようになってしまう方が多いですね。プライドもあ
るしスキルもあるんでしょうけども、やっぱりそれなりの役職がある事がモチベー
ション維持になっていると感じます。

お金の話になりますが、予算編成に取り組んでいますが、来年度光熱水費が昨年
度に比べて9500万円高くなります。約1億円光熱水費だけで高くなるので、予
算が余分に必要になります。要求は一応そういう事になっております。中学生高校
生に子宮頸がんのワクチンを打ってもらおうと思っていますが、レベルがあって、
効果の高いワクチンは金額も高いです。無料で打ってもらうためには予算は約3,
000万円くらい必要になるそうです。世の中の給料が皆上がるという事になって
きたら、大幅に賃金をアップしなければなりません。特に自動車産業は人手がたく
さん必要ですよ。

(下野委員)

期間従業員という事で採用していますが、やはり離職が多いです。またそれを補
充するために採用し、さらに教える時間もコストもかかります。私どもとしては入
った人がずっと働いてくればコストがかからなくて良いんですけど、今は売り手
市場で人々がより良い職場を求めているので、働いてみて少しきつかったらすぐ辞
めてしまいます。なので、福利厚生を含めた働きやすい職場を作っている状況です。

(遠田町長)

お金が潤沢にあれば良いのですが、そういった社会情勢があるものですから、な
かなか思うようにいかないですね。それでもうちの町は他の町に比べたら税収があ
ります。固定資産税が数億円入ってきます。他の税収は少し下がったりはするん
ですけど、他の自治体は税収が上がるなんて事は基本的に無いです。国から地方交

付税交付金をもらって穴埋めをして、どこに住んでも同じような住民サービスが受けられるようになっていきます。うちはそういうのが無い半面、コロナ対策のお金が少ないんですよね。住民1人あたりが隣町の2分の1とか、酷い時には5分の1も無い様な状況になっていて、それで同等の対策をするとなると財政基金という町の貯金を崩してやっています。隣町でスマホを買い換えたら2万円、という政策が出ると、荏田町ではやらないのか、と言われる事もあります。限られた予算できるだけ公平に効率良くやるとしたら、水道の基本料金を半年間免除したり、給食費を4か月間無料にする、などを政策としてやっています。

それから、先生たちのモチベーションがあるのかな、物は揃えたけどやる気が出ないと困るよね、と感じます。若い先生が多いとの事で、若い先生たちがやる気になったら大きな力になるという期待があります。校長先生や学校管理をする先生たちが若い先生たちの気持ちを上手く上げられるか、という事もあります。

子どもたちに対する投資に関しては、例えば学習タブレットと学習ソフトがいります、算数数学のソフトは購入しましたが国語や英語はいらないのか、という事になってきます。また、部活動で、外部委託をするという話になると、これも国からあまりお金が出ずに、町独自でやりなさい、という事になってくるだろうと思います。そういう事をできる範囲でやらなければならないと思いますが、上手く使えているかどうかは何とか検証したいと考えています。教育分野でも何か節約や削減ができる部分がないか、という視点での努力が見えればこちらも予算を付けやすいです。来年度は体育館の更新工事を考えています。荏田中学校も校舎を全面的にやり替える計画があり、大きなお金がかかります。そういう事を順番に学校施設はやっていこうと思っています。知恵を出していかなければなりません。

先日議会から言われたのは、奨学金を給付型にできないか、という事でした。学校教育課で検討したところ、給付型にするのは色々問題があるという話でしたが、社会の流れが給付型になっているという事で、それもまたコストになります。他にも様々な取り組みを、どうしたら実行できるかを考えなければなりません。先生たちのモチベーションを上げるためにはどんな事をしたら良いか。例えば、付けていない予算もあるんです。学校のエレベータを動かしてほしい、という要望がありました。しかし、足が悪い生徒がいれば動かしますが、今そういう生徒はいないんだから、もっと別のところに予算をかけましょう、という考えです。既存の物を動かしてほしい、という要望が議会から上がるのも、事実です。要望に対しては、メリハリや優先順位を付けながらお金を適切に使う事が大事だと思います。今日、教育長から教育の課題をお聞きしましたが、それを勉強し、現場に行き校長に先生直接話を聞いたりしようと思います。南原小学校がSDGsの取り組みをするのですが、子どもたちから直接話を聞かされると、胸を打たれますね。もっと良い方法は無いか、皆さんと知恵を出し合っていけたらと思います。ぜひともまた貴重なご意見を頂きたいと思います。

(中野副課長)

ありがとうございました。他にはよろしいですか。本日はそれぞれの立場からたくさん意見を頂けたと思います。最後に、教育長よりまとめの言葉を頂きたいと思います。

(井上教育長)

本日は令和5年度に向けた荊田町の教育の課題と方向性ご協議頂きありがとうございました。町長部局と協議を行う中で、荊田町の教育の課題や新しい方向性が町全体として共有できたのではないかと思います。先ほど町長からお話がありましたが、予算の適切な使い方やコスト削減も教育委員会として考えるべきだと思いました。一人一台端末になり、ICT化によりペーパーレス化が推進できるのではないかと考えております。一つずつの小さな削減が有効な予算の使い方に繋がるのではないのでしょうか。そのためには、皆様の色々なご意見をお聞きしたいと考えております。教育委員会の中でも提案して参りたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。教育は未来への投資ですので、今日の協議内容を活かして、教育環境の整備や学力の向上、コミュニティ・スクールの実施等、生涯教育にも知恵を絞って参りたいと思っておりますので、どうぞご理解とご支援をよろしくお願い致します。今日はありがとうございました。

(中野副課長)

それでは、教育委員会からのまとめの言葉を受けまして、町長から一言お願いしたいと思います。

(遠田町長)

色々課題を聞きましたので、解決方法を考えていくのが私たちの仕事だと思います。お金で解決するものと、そうではない知恵を出せば解決できるものとあると思います。教育部局と話をしながらこれからも進めてまいりたいと思います。引き続きをご協力をお願いいたしまして、最後の挨拶とさせていただきます。

(中野副課長)

ありがとうございました。それでは、次第の
その他に移りますが、何かございますか。無ければ、以上をもちまして、第1回の総合教育会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。

(一同)

ありがとうございました。